

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	らいおんハートからだの児童デイサービス大和（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	2026年2月3日		～ 2026年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月16日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な専門性を持つ職員が 支援に関わる事ができる体制作り	保育士、児童指導員、看護師、言語聴覚士が在籍している。 事で多様な視点による支援が提供できる事ができます。 事業所内のケース会議やモニタリングでは職員個々の専門性 から分析を行い支援に活かせるようにしています。	引き続き、清潔保持を実施すると共に、お子様の成長に合わ せて福祉用具を用意できるように取り組みを進めて行きま す。
2	事業所内の清潔な環境保持と バリアフリー構造	サービス終了後には、支援に使用した遊具の消毒、床のふき 取り消毒を実施しています。入浴支援では、一人ひとりの入 浴ごとに浴槽を洗剤にて洗い、交差感染（共有の物品からの 感染）を防げるようにしています。事業所内はバリアフリー 構造となっております。浴室に電動ベッドを導入しました。	引き続き、清潔保持を実施すると共に、お子様の成長に合わ せて福祉用具を用意できるように取り組みを進めて行きま す。
3	電子連絡帳（HUG）を活用したスムーズかつ リアルタイムな情報共有の実現	当事業所では、保護者との連絡手段として電子連絡帳 「HUG」を導入しています。これにより、子どもの様子や体 調の変化、支援内容などをリアルタイムで共有でき、保護者 の安心感や職員間の情報連携の強化につながっています。写 真やコメントの即時共有が可能のため、細やかなコミュニ ケーションが生まれ、より質の高い支援の提供が実現してい ます。	保護者からの声をさらに活かしながら、連絡帳の記録内容の 工夫や返信機能の活用、定期的なフィードバックの仕組みづ くりなどを通じて、より質の高い情報共有と信頼関係の構築 に取り組んでまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時の災害対応に関する説明について	当事業所では、定期的に災害訓練を実施しておりますが、主 に職員と実施日にご利用しているお子様のみに限られていま した。自己評価アンケートにて保護者様への説明や訓練の周 知が不十分であるとの回答が見られました。一部のお子様 のみの参加であった事、また保護者様にきちんと伝わってい ないことが課題要因と考えています。	災害訓練、その他研修などの実績は「お便り」にて保護者様 に公表できるように取り組みを進めて参ります。また、事業 所内の災害対策だけでなく、保護者様にも対応を周知し、 必要に応じて訓練に参加できるような計画作成に取り組んで 参ります。
2	地域との交流機会の不足について	地域の子どもたちや社会と関わる機会が少ないとの指摘があ りました。お子様同士の社会的な関わりや経験を広げるため にも、地域とのつながりを意識した活動の場づくりが求めら れていると考えています。	お子様に必要な交流の機会は同世代だけではなく、地域の 方々、企業の皆様、社会資源との交流も必要であると考えて います。普段の事業所内利用だけでは関わる事のない世代の 方々や社会資源を活用して楽しく活動ができる機会を増やせ るよう取り組みを進めて参ります。
3	保護者様向けの研修やイベントの開催について	入浴支援以外での保護者やきょうだいを対象とした研修やイ ベントが少ないのご意見を頂いています。家庭内でのケア に役立つ知識や対応方法について、学びや気づきを得られ るような機会が必要であると感じています。ご家庭での困りご とに寄り添い、保護者自身が安心して子育てできるような支 援の場を増やすことが、今後の重要な取り組み課題と考えて います。	勉強会を開催し、日々の育児や介助に役立つ内容を提供して いきたくと考えています。またイベントなどを通じて、ご家 族全体を対象とした支援の場づくりを進めてまいります。希 望に応じた個別面談の実施や、通信・SNSなどを活用した継 続的な情報提供も行うことで、家庭と事業所が連携しながら 子育てを支えていける体制の充実を目指してまいります。